

よく確かめて！

富士市の 財政事情

平成六年度の決算のあらましと、九月三十日現在の平成七年度一般会計予算の上半期執行状況をあわせてお知らせします。

富士市の財政事情は、どうなっているのでしょうか。税金の使い道は、どうなっているのでしょうか。あなた自身の目で、よく確かめてください。

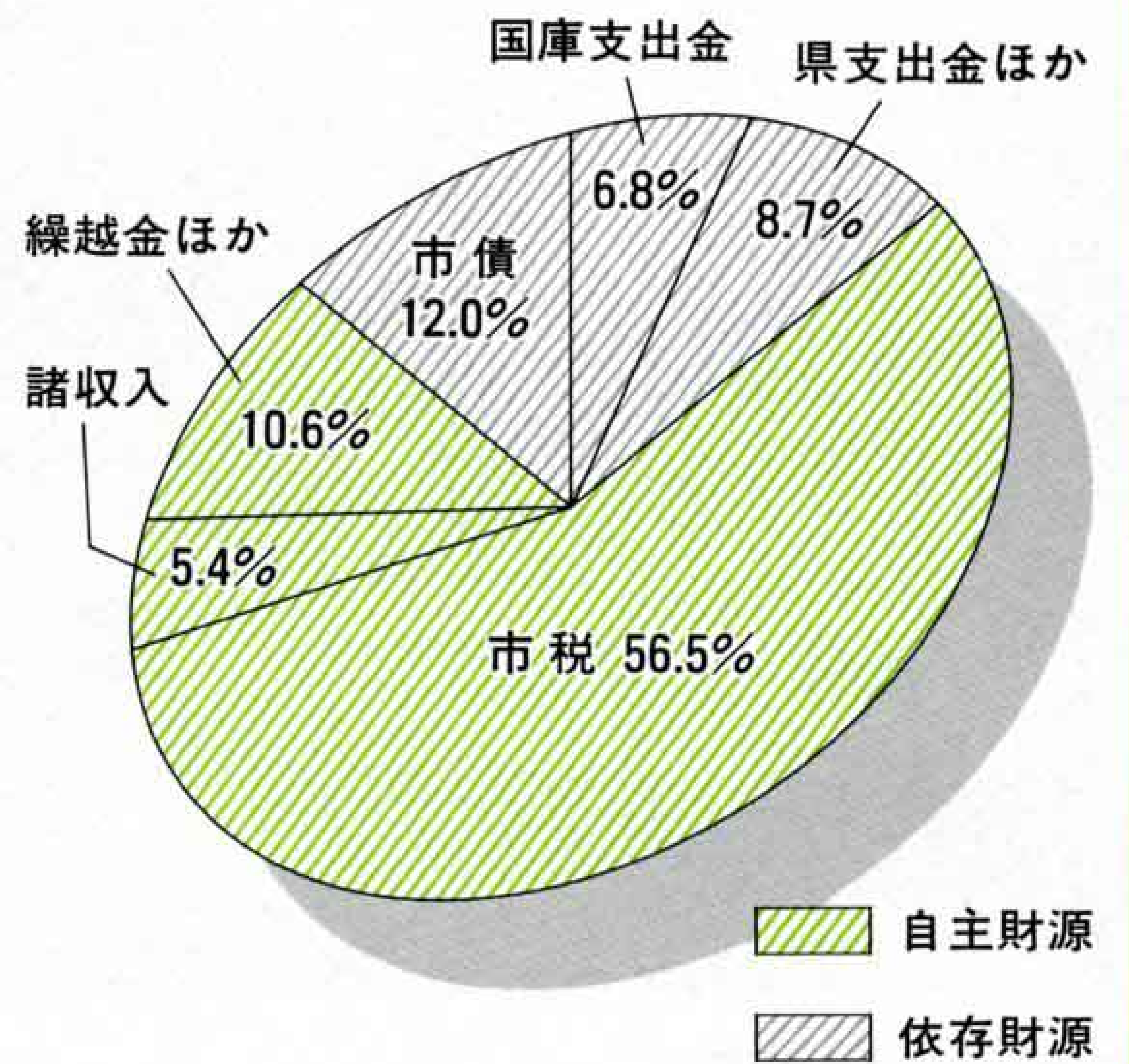
平成6年度 一般会計決算

歳入

会計年度内に入ってきたお金

科目別	収入済額
総額	716億 177万円
市税 (市民税・固定資産税など)	404億3,384万円
市債 (市の借入金)	85億8,730万円
国庫支出金 (国からの補助金など)	49億 812万円
諸収入 (貸付金元利収入など)	38億8,462万円
繰越金 (前年度からの繰越金)	31億3,515万円
県支出金 (県からの補助金など)	21億3,676万円
地方譲与税 (国から地方に譲与されるお金)	18億5,462万円
分担金及び負担金 (施設入所者の負担金など)	16億7,243万円
使用料及び手数料 (市営住宅使用料など)	16億5,416万円
利子割交付金 (県から交付される利子割県民税)	12億9,399万円
繰入金 (基金からの繰入金)	8億4,246万円
その他	11億9,832万円

財源別歳入 716億 177万円

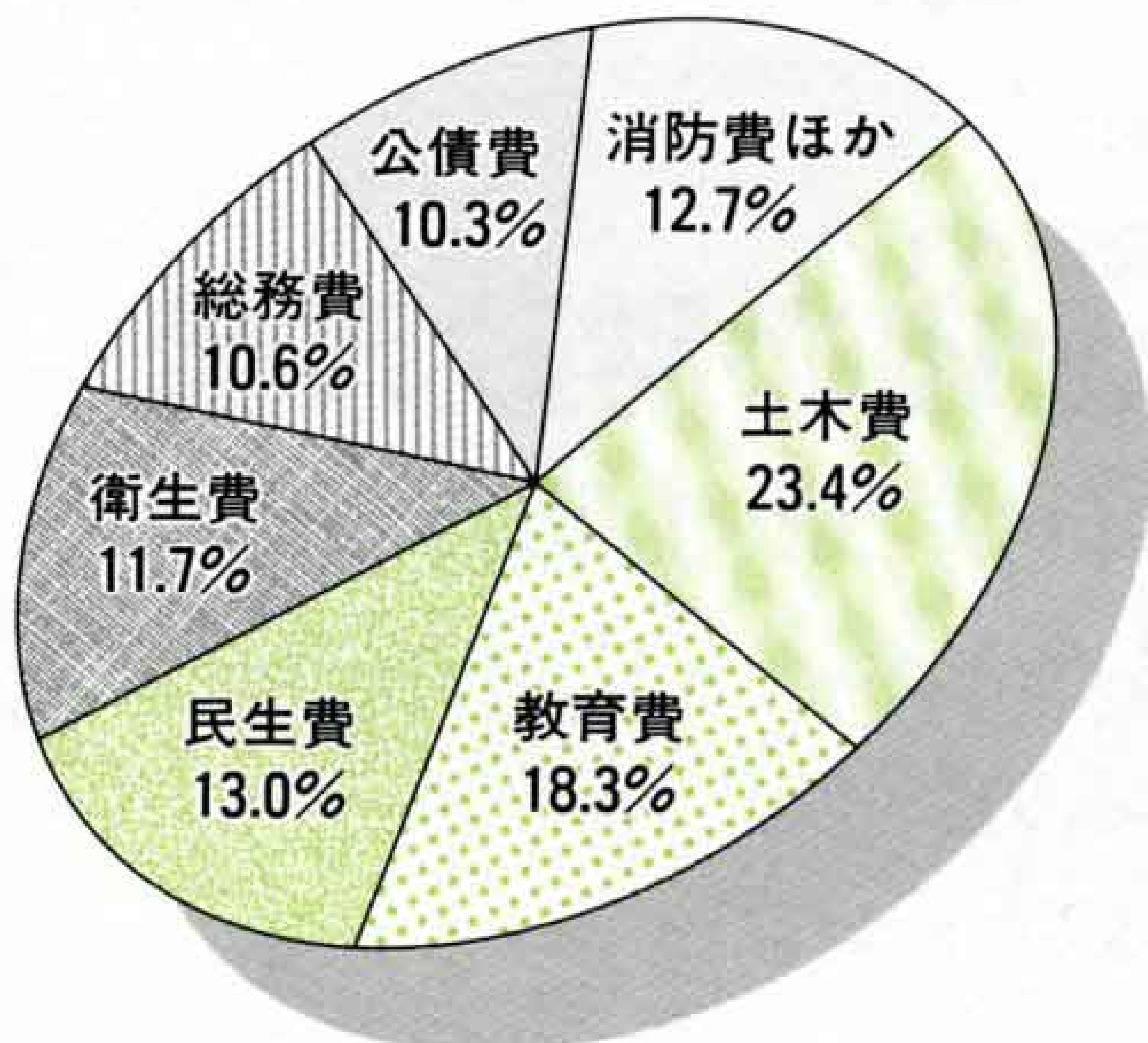


※会計年度 (4月1日～翌年3月31日)

歳出

会計年度内に使ったお金

目的別歳出 690億2,705万円



科目別	支出済額
総額	690億2,705万円
土木費 (道路や公園などの整備に)	161億3,650万円
教育費 (学校整備や社会教育に)	126億2,410万円
民生費 (社会福祉などに)	89億9,266万円
衛生費 (ごみ処理や病気の予防に)	80億7,700万円
総務費 (庁舎管理や人件費などに)	72億9,135万円
公債費 (借りたお金を返すために)	71億2,687万円
消防費 (消防・水防・防災のために)	23億7,186万円
労働費 (働く人のために)	20億9,084万円
農林水産業費 (農林業や水産業のために)	20億4,077万円
商工費 (商業や工業の発展のために)	17億 860万円
議会費 (議会の運営のために)	5億2,767万円
その他	3,883万円

決算のあらまし

平成六年度は、「ふじ二十一世紀プラン」に基づき、ふれあいのある快適な街を目指して、限られた財源を有効に使いながらさまざまな事業を行いました。

一般会計は、市税収入を主な財源として道路、教育、福祉などに使う会計のことで、平成六年度の一般会計の決算額は、歳入が七百十六億百七十七万円、歳出は六百九十億二千七百五万円でした。

富士市の歳入は、市税などの自主財源が七二・五％、市債や国庫支出金などの依存財源が二七・五％となっています。

歳入で最も多いのは、市民税や固定資産税などの市税。全体の五六・五％を占め、四百四億三千三百八十四万円です。この額は、市民一人当たり約十七万円を負担していただいたこととなります。

歳出を科目別に見ると、土木費がトップで全体の二三・四％を占めています。市道や都市計画街路の新設改良事業、臨港富士線の電線類地中化事業など、快適なまちづくりのための市街地整備に百六十一億三千六百五十万円を使いました。なお、歳出を市民一人当たりに使ったお金に換算すると、約三十万円になります。

Q・市民1人当たりに使ったお金と1人当たりの市税負担額とでは、どちらが多い？

A 市民1人当たりに使ったお金 **29万6,722円** > 市民1人当たりの市税負担額 **17万3,810円**

ちよつと教えて
市民1人
当たり
に使ったお金の
内訳

Q・市民1人当たりに使ったお金の使い道は？

A

(平成6年度 一般会計決算から)

第1位 **6万9,365円**

土木費
道路や公園などの整備に



第2位 **5万4,266円**

教育費
学校整備や
社会教育に



第3位 **3万8,656円**

民生費
社会福祉などに



第4位 **3万4,720円**

衛生費
ごみ処理や
病気の予防に



- 第5位 **3万1,343円** / 総務費 (庁舎管理や人件費などに)
- 第6位 **3万 636円** / 公債費 (借りたお金を返すために)
- 第7位 **1万 196円** / 消防費 (消防・水防・防災のために)
- 第8位 **8,988円** / 労働費 (働く人のために)

※平成7年4月1日の人口23万2,632人で算出

歳入 324億4,209万円、歳出 316億7,078万円

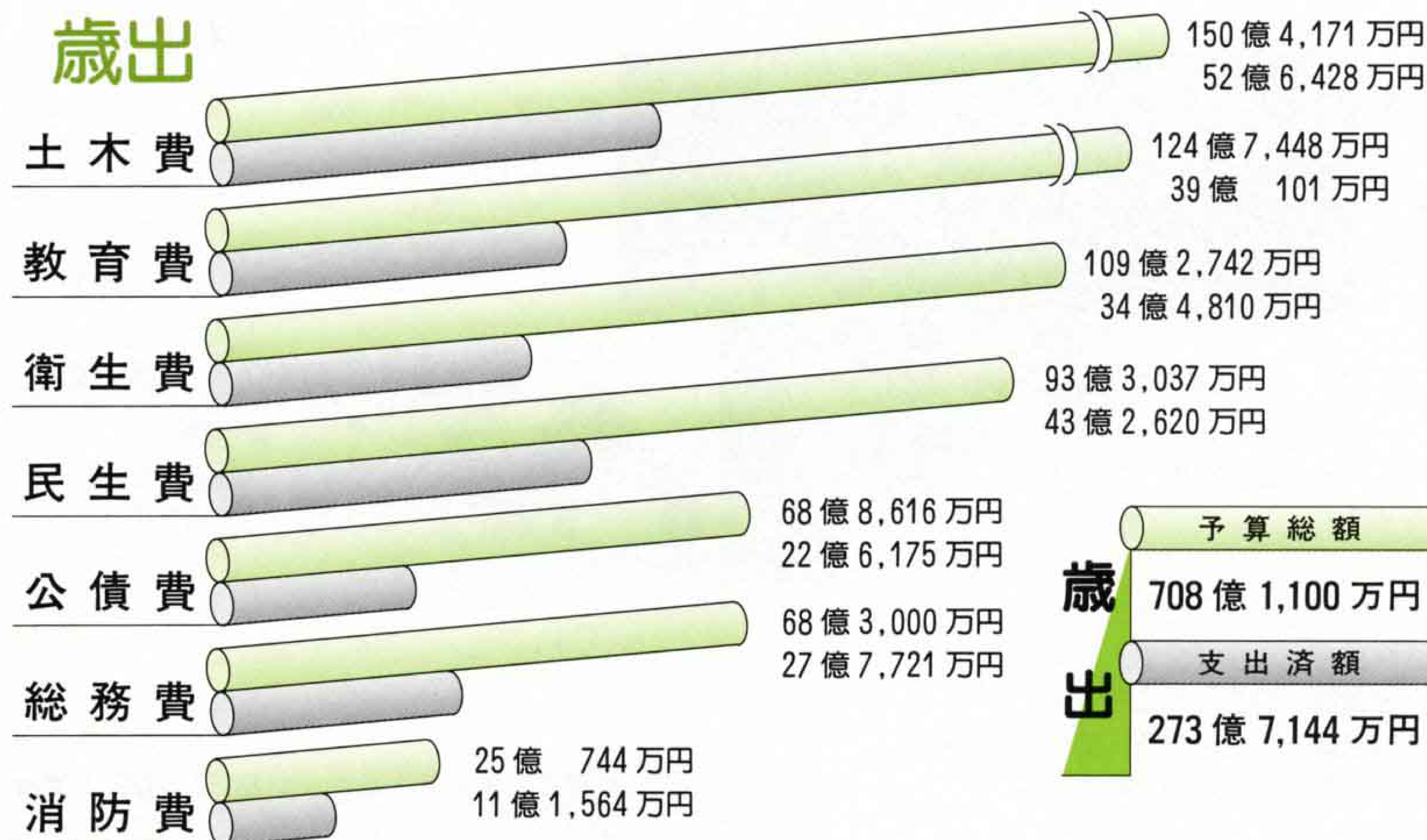
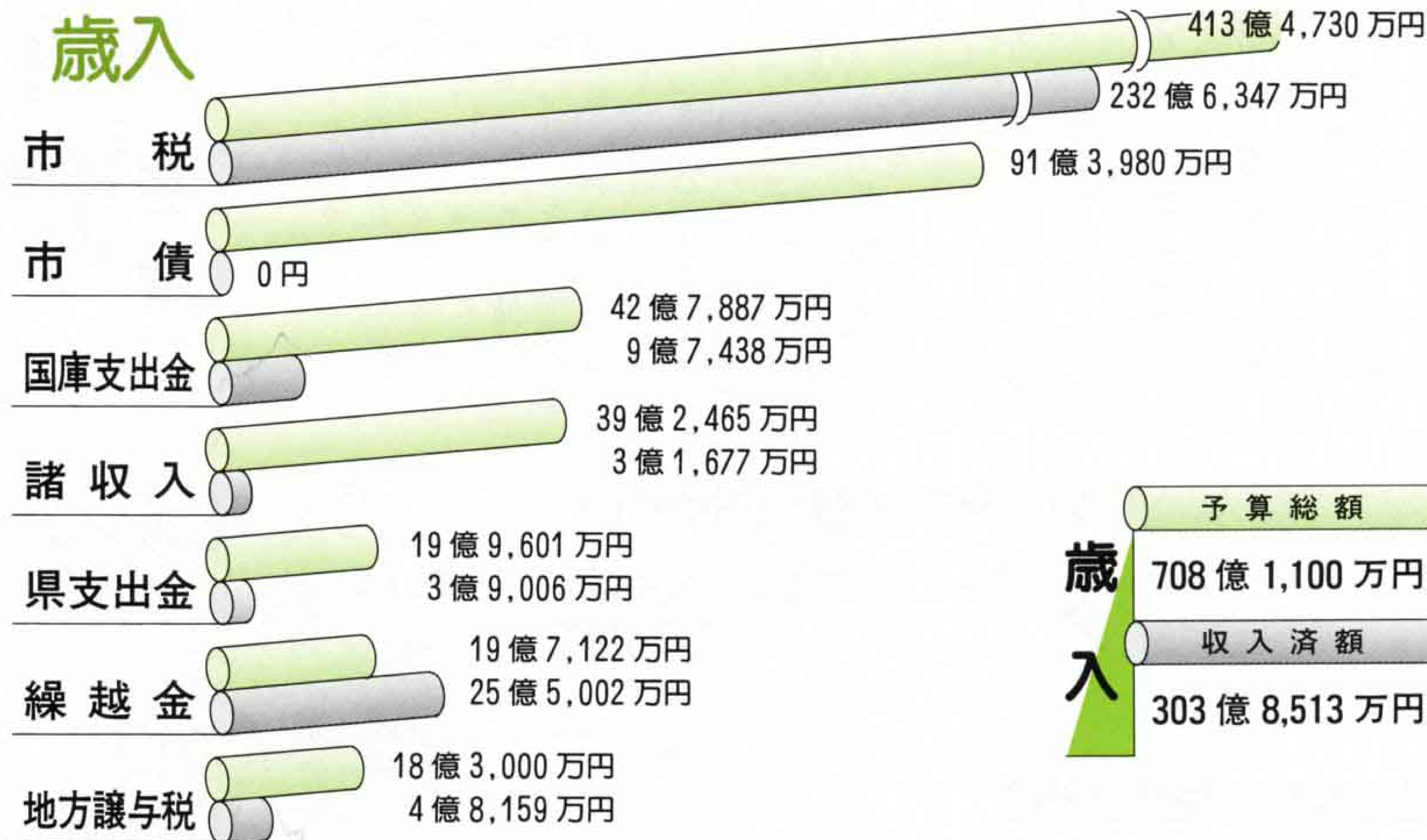
特別会計区分	歳入	歳出
国民健康保険事業	99億8,456万円	94億9,783万円
下水道事業	99億5,841万円	99億4,773万円
老人保健医療事業	97億1,380万円	97億6,234万円
富士中部土地区画整理事業	16億6,225万円	16億 276万円
公共用地先行取得事業	3億4,217万円	3億4,217万円
地方卸売市場事業	2億6,841万円	2億6,499万円
駐車場事業	6,597万円	6,362万円

行政の基本的な経費を一般会計といい、特定の事業ごとに分けて、別個に会計を設置している経費を特別会計といいます。富士市には、十六の特別会計と二つの企業会計があります。左の表では、財産管理特別会計(内山、旧吉原、旧島田、旧今泉、旧今泉・一色・神戸・今宮、旧元吉原、旧須津、旧吉永、旧原田)を省略しています。

※老人保健医療事業会計の歳入不足額は、平成七年度の歳入を繰り上げて充当しました。

平成6年度
特別会計決算

一般会計は追加補正で約708億円



平成七年度の一般会計は、九月議会までに十三億六千万円が追加補正されて、総額七百八億千百万円になりました。
また、歳出の執行率は、九月三十日現在で三八・七％です。

病院事業

収入合計	108億5,648万3,620円
医業収益	91億5,538万4,963円
医業外収益	17億109万8,657円
支出合計	107億2,167万1,367円
医業費用	101億4,891万8,011円
医業外費用	5億7,275万3,356円
純利益	1億3,481万2,253円

水道事業

収入合計	29億9,348万265円
営業収益	27億8,392万8,313円
営業外収益	2億955万1,952円
支出合計	28億5,400万7,328円
営業費用	24億1,854万8,173円
営業外費用	4億3,545万9,155円
純利益	1億3,947万2,937円



平成6年度

企業会計決算